



ジョイントした主枝は雪で折れやすいのでビニールで雪よけをする。春に張った雨よけビニールの一部を、冬まで残しておけばよい

枝利用の形で育成する。これが結果枝となり、3年目から本格的に結実する。長果枝に成らせるので果実品質は良好である。

この栽培方法では地上部の大きさに比較して圧倒的に地下部(根)が多いため、新梢の発生は旺盛になる。また主枝が水平に誘引されているためか、そこから出る結果枝は馬鹿伸びせず適度な伸長で止まり、基部に花芽がつく。骨格枝は連結した主枝だけである。

主枝は足でまたげるほど低く、そこから上に伸びた結果枝は三年枝までしか使わないので、2mくらいしか伸びず、非常に低い樹高で管理できる。

結果枝が地表近くにあるため霜の害が懸念されるが、基本的に通常の管理でもよく、念のため「霜ガード」(ロイヤルインダストリーズ社)を使用すれば当地では問題はない。

一番問題となるのは、低い位置に結実するためにナメクジに収穫期の果実

をかじられてしまいがちなことである。下草を綺麗に管理し、ナメクジ除去の何らかの手段をとるとよからう。

以上簡単に述べたが、実施するにあたっては難しいこともあると思う。園地見学などは問い合わせいただきたい(有料にて。TEL 023717314773・丹野歯科医院)。

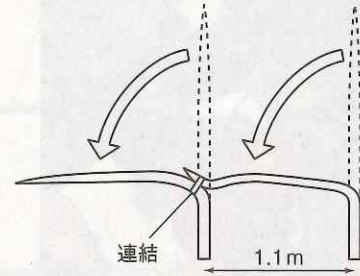
本方法が多くのサクランボ農家の助けになればこの上ない喜びである。また趣味栽培家の方にも取り組んでいたが、プロ農家をうならせるサクランボをぜひ収穫していただきたい。

(山形県河北町)

植え付けとジョイントの手順

- 1 苗木の長さは約1.8m、植栽間隔は約1.1m。連結部より上の位置から新梢が出ないと連結部が活着しづらいので、先端付近に芽がついている苗木を選ぶ
- 2 4月に苗木を定植してすぐに寄せ接ぎの要領で連結する。苗木の連結させる部分(地面から40~50cm)を、ナイフなどで約8cm削る。続いて隣の苗木の先端部分を先ほど削った部分と重なるように削り、連結して結束バンドで固定する
- 3 連結した部分は、新葉が出た頃から9月頃までこまめに観察し、結束バンドが過度に食い込まないように適宜交換する。うまく連結された場合は8月までにカルス形成が旺盛に見られる

連結の仕方



先頭の苗木は、水平方向に誘引して固定。2本目以降は前の樹と連結して固定するので、誘引の必要はない



苗木の先端を削った様子



結束バンドで固定

新梢は多いが、伸びすぎない

ジョイント栽培は、列状に苗木を植栽し、主幹を水平に寝かせて隣の樹へと接ぐ。1年目は結束バンドの交換をこまめに行なうだけで、格別な管理はない。ただし積雪が多い地方の場合、収穫はなくても最初の冬から雪に対処する必要がある。

2年目からは、発生した側枝を長果

あいがも、あひる

青首合鴨
お馴染み、70年以上、水田除草の実績
肉用大型あい鴨(グリモウ種)
育種世界トップ企業が改良した、
あい鴨肉用品種。高品質胸肉
あひる農法にはグリモウ種

合鴨孵化場 椎名人工孵化場

〒289-1726 千葉県山武郡
横芝光町木戸6177
Tel: 0479-84-1008
Fax: 0479-84-3363
http://www.shiina.co.jp/
お問い合わせは「現代農業」と明記の上、
上記まで